

2024年度 JASO・JIS 制定・改正 作業計画

JASO制定3件、改正2件、 JASO TP制定2件、 JIS制定1件、改正2件 計：10件

作業内容	部会	規格番号	規格名称	目的
JASO 制定 (3件)	ピークル ダイナミクス	新規	乗用車一ディスクブレーキ モーターオンキャリパ (MOC) 熱クランプ緩み評価試験法	2019年3月に制定した、乗用車一ディスクブレーキ モーターオンキャリパ (MOC) アッセンブリ台上試験方法 (JASO C468 : 2019) の残課題として、熱クランプ緩みに対する試験方法があった。2020年度に議論を再開したところ、コンポーネント試験のみでは規格化が困難である一方、摩擦ブレーキの熱クランプ緩み耐性の設計に資するという観点や、欧米の将来の規格化に対する日本としての考え方を構築しておく必要がある、という結論となり、コンポーネントに加え、実車、摩擦材も含めた試験方法の標準化を行うこととなった。そこで標準化調査の結果も踏まえて新規規格を策定する。
	安全	新規	幼児専用車用幼児用シートベルト	<ul style="list-style-type: none"> 日本では幼稚園、保育園、認定こども園等にて幼児送迎の為に幼児専用車 が用いられている。 広く普及している大人用シートベルトは必ずしも幼児に適切とは言えず、一般に幼児席にシートベルトは装備されていない。 一方、幼児に適切なシートベルトの研究は進められており、それを規格としてまとめる。
	安全	新規	幼児専用車用幼児用シートベルトの取付及び取付強度	
JASO 改正 (2件)	車両通信	D 015-7 : 2019	自動車クロックエクステンションペリフェラルインターフェース (CXPI) 第7部：サブセット プロトコル仕様 & プロトコルコンFORMANCEテスト仕様	ボディ系通信では、CAN、LIN が使用されているが、機器間のワイヤーハーネス肥大化の問題があり、システムに適した多重通信技術が望まれ、CXPI通信をJASO D015として制定したのち、ISO20794の制定を行った。ISO規格化したため、JASO D015-2～5規格は廃止を予定しているが、本JASO規格は、一ISOでは定義されていない規格となっている。また、ISO規格化の際、JASOの構成とは異なる章構成としたため、参照先の変更ではわかりにくい。今後一連のJASO D015規格を廃止していくに際して、本規格に対し「引用元を、ISO20794規格に変更する」、「ISO20794の章構成とする」の大きく2点の改正を行い、JASO D015-2～5の廃止後も、理解、参照しやすい規格とする。
	要素	F 126 : 2016	自動車部品一フランジ付き六角ボルト	自動車部品一フランジ付き六角ボルト JASO F 126 は2016年に制定され、JIS/ISOとは異なる最新の技術を反映した新たなJASO規格となっている。2016年制定時に一部年次指定の規格の引用があった。引用規格の最新化、関連規格との整合が必要と考える。JASO F 101の改正内容を参考に、現状に合わせた規格改正を行う。
TP 発行 (2件)	電子・電装	新規	自動車用部品及び車両のEMCに関するCAE性能予測手法に関するガイド文書	CASEにおける自動車のEMC及びEMFは車両及びその電子システムの基本的な要件となっており、期間短縮と性能確保の両立が必要である。今後、OEM&部品メーカー間で CAEモデル解析モデルを共有/結合してさらなる精度/効率向上を検討する必要がある。今回、本TPでは、自動車及び自動車部品EMCのCAEに関し、各試験項目に適用するCAE手法の抽出及び層別を行い、解析手法の原理、適用範囲、モデル事例等の解説をまとめる。ここでは、今後の車両OEM、部品メーカー間のモデル流通を想定し、相互のモデル策定及びその連成に関するガイダンスの文書策定を行う。
	電子・電装	新規	自動車用半導体素子の品質/調達に関する運用ガイドライン	これまでに、21/22年度発行済みのJASO-TPで部品切替(製品/工程変更)の標準化を果たし、23年度発行予定のJASO-TPで部品認定(PPAP)の標準化を狙っている。一方で、昨今の半導体部品の需給逼迫を受けて、更なる安定調達・品質確保に向けた自動車業界としての強化が求められており、特に、日系メーカー独自の品質・調達に関わる要求事項を明確化・整理の上で、業界標準ガイドラインの制定・推進が必要となっている。
JIS 制定 (1件)	電子・電装	新規	自動車部品一電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験一第2部：電気負荷	ISO 16750-2が改訂され、今年リリースされる。改訂を受け、関連する国内版のJASOの改訂も必要になるが、TBT協定に基づき、JISとして制定する必要があるため、JASO D014-2を廃止し、新規にJISとして制定する。JISとして制定する際規格番号に関しては、JASO D014の他パートと合わせて設定を行う。
JIS 改正 (2件)	パワー トレイン	D 3603-4 : 2009	ディーゼル機関一燃料噴射ポンプの取付寸法一第4部：端面フランジ取付式高圧サブライポンプのフランジ	コモンレール燃料噴射システムの採用増加に鑑み、各部品の取付形状についての規格化の取り組みが行われてきた。端面フランジ取付式高圧サブライポンプの取付規格についても、この規格とISO 7299-2について、同時進行で規格制定作業が行われ、JISでは2009年に制定発行された。その後、ISO 7299-2について新たな形状寸法の追加が提案され、改訂版が2021年に発行された。新たな形状寸法は日本でも使われており、この内容をJISに反映するための改正を行う。
	パワー トレイン	D 3610-2 : 2020	直噴ガソリン機関一 高圧燃料配管一第2部：配管アセンブリ	直噴ガソリン機関に関する規格群が、ここ10年の間にISO及びJISの両方で制定されてきた。その中で高圧燃料管アセンブリの規格は、ISO 18418-2が制定され、一致規格としてJIS D3610-2が発行された。ガソリン機関の直噴化の拡大に対応して、高圧燃料管アセンブリについても新たな管内外径組合せや、規定していない一般の高強度鋼管を用いた管アセンブリが登場してきた。この分野で技術的にリードしている日本から、新たな内容をISO規格に反映すべく、日本がプロジェクトリードとなってISO 18418-2が改訂発行された。今回その改訂内容をJISに反映すべく改正を行うものである。